正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第３４４回

『忌野清志郎』

の名言

発　　行：入試広報室
発 行 日：令和５年２月２２日
編集委員：入試広報室 鈴木

今回の言葉

それは夢のまた夢、
夢の中の夢の中の夢の中の
そのまた夢の中の、
夢の夢さ。でも、
夢はあきらめない方がいい。

忌野 清志郎は、日本のロックミュージシャン、俳優。本名：栗原 清志。血液型 A 型。 RC サクセションを筆頭に、忌野清志郎 ＆ ２・3'S、忌野清志郎 Little Screaming Revue、ラフィータフィーなどのバンドを率い、ソウル・ブルースを下地にしたロックサウンドを展開。

Column

散々ネガティブなイメージを与えても、『諦めなかったその先にあるもの』が、自分の人生の中で何にも代えがたいポジティブなものになるのだろうと感じさせてくれるような、“さすがアーティスト”と感じる非常に高いメッセージ性を感じる言葉です。

アーティストとして成功できる人は、まさに“ほんの一握り”という世界です。志半ばでその夢を諦めて残念ながら違う道に進むことを決断した人も大勢いたと思います。わずかな席しか用意されていない夢の世界に向かって一緒に競争しながらも、良きライバルとしての仲間意識も生まれていくのだと思います。おそらく清志郎さんの周りに『一緒に夢を追いかけていたはずなのに…』というかつての仲間が大勢いるのだろうと思いました。清志郎さんは諦めなかったからこそ成功したということですが、苦しい場面も逢ったと予想される中、どのようにして気持ちを繋いでいったのか気になるところです。しかし、今回の言葉にある『あきらめない“方がいい”』という気持ちが一番大きかったのかもしれません。みなさんの中には“そんな漠然とした考えだけで夢を諦めずに気持ちを繋ぎ続けることなんてできない”と思う人がいるかもしれません。もちろん達成するための方法論は細ければ細かい方がいいのかもしれません。しかし、とにかく信じるといった漠然としているものの、どこか非常に強い“軸”のようなものが必要なのだと私は思います。実体験としても自分の夢を叶えるまでに自身を支えたものは『絶対に叶える!!叶う!!』という根拠もなにもない漠然とした希望だけでした。正智深谷高校の校訓である『選択・専修』を胸に刻み、“夢中”になって高校生活を楽しんでください！